卒業の先輩が懐かしい･感動の青春を大いに語る

創立１１０周年記念誌発行事業として、定時制卒業生による座談会「定時制を語る」が本校会議室にて行われました。

出席した卒業生は４９期から９３期までの８名。定時制に学んだきっかけや授業、学校行事、学校の状況等、当時の時代状況の変化も感じながら、各々の勤労学生としての懐かしい・感動の青春の思い出を語っていただきました。

定時制に入学したきっかけは、経済的なこと、勤めていた会社の社長や先輩が勧めてくれた。兄弟がすべて定時制の卒業生だったため、また、専門資格を取得して長年勤めたが、学びたい気持を諦めきれずに等、働きながら学ぶ生活を選んだ理由を語ってくれました。

学校に入学しての思い出としては、進路等において先生のアドバイスがいつも人生の転換点に生きていた、応援団の校歌や応援歌の練習は恐ろしかったが「学校に誇りを持て」と先輩方に教えられた。先生方に本校出身の先生がおり、本当に生徒をかわいがってくれた。怒ると怖かったが、親身になって面倒を見てもらった等、先生や先輩との係わりあいに感謝の思いが語られた。さらに授業に関しては、仕事が大変な人が多く、学校に来たら居眠りをしていたこと、テストの点数が悪かったこと、そして担任の先生にはいつも「定時制は２年生まで上り坂、３年生からは下り坂である。だから何とか頑張るように」と常に激励されていた事など、繋がりの深さが語られました。

その後、学校行事や部活動、母校愛等についてさらに熱く語られ、現在では想像できない内容や、歴史についてさまざまなエピソードが出てきました。

最後に先輩方は、今後とも歴史を作ってきた先輩方の思いを自分たちが引き継ぎ、今の世代の後輩を全力で応援していきたいと決意を披瀝して下さいました。

座談会のために、懐かしい先輩方が集まり、定時制生徒、勤労学生として自分の人生を真摯に生き抜いてきた語りには、学ぶ事への意味を見いだし、努力してきた先輩方の生き方の素晴らしさが改めて思い起こされると共に、今後の定時制教育に携わる教員として襟を正して取り組んでいく決意を固めました。